

令和4年1月28日
 豊小学校学校関係者評価委員会
 委員長 梅本澄雄



【第2回学校関係者評価委員会】

1 実施日 令和4年1月28日

2 参加者

(1) 学校関係者評価委員

No.	氏名	役職	備考
1	保坂 博司	豊地区自治会会長	
2	齊藤 尚子	元本校校長	
3	梅本 澄雄	豊地区教育振興会会長・元本校校長	委員長
4	津久井 豊徳	元市教育委員・元校長(楡形中学校)	
5	吹野 武文	豊地区主任児童委員	副委員長
6	名取 秀敏	P T A会長(保護者代表)	

(2) 学校職員(3名)

No.	氏名	役職	備考
1	名取 広行	校長	本校在籍3年目
2	横山 啓二	教頭	本校在籍1年目/事務局
3	上野 中	教務主任	本校在籍2年目

3 学校から提案された内容

- (1) 教職員による後期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する後期児童アンケートの状況
- (3) 学校生活に関する保護者アンケートの状況
- (4) 豊小学校後期自己評価書(アンケートの分析及び改善方策について)

4 協議内容・意見

○豊小学校後期自己評価書に対する考察

(教職員・保護者・児童アンケートの考察/改善方策に対する検証)

(1) 学校経営・組織について

- ・コロナ禍の中で、学校経営も運営も、苦勞が尽きないだろう。学校の諸問題や課題には、校長のリーダーシップを基に全職員が一丸となって取り組んだ成果に敬意を表す。特別支援教育の充実を大切にし、全職員で共通理解して、きめ細かな支援と組織的な対応がしっかりできていると思う。危機管理については、コロナ禍において、全員が危機感をもっていることが分かった。今後も更なる意識を高め、児童の安心・安全に努めていただきたい。
- ・コロナ禍で平常な学校運営が困難の中、評価が安定している。しかし、学校の根幹である教育目標に基づいた教育実践に関する数値が、他の項目に比べ若干低いのが気になる。教師間の不和に繋がるケースもありうる。③⑤⑥とAランクが高いのは心強い。互いが信頼し合い協調性が見られる。④は低いのが校内が安心して過ごせている環境なので、気付いていないのだと思うが、今迄コロナ感染が起これないのは、知らぬ間に先生方の信頼関係が危機管理に繋がっているものと思える。

- ・チーム豊，チーム一丸と言う気持ちが大事だと思った。
- ・校長先生の学年初めの方向性がしっかり示されているからか，教育に向かう先生方の姿勢が良くなっているように見受けられる。校長を中心とした学校チームの一員として同方向で頑張っている姿は素晴らしい。

(2) 学習指導について

- ・市の指定研究のもと、「チーム豊」として，子どもたちの健全な育成を目指して，日々の研究とその実践を積み重ね，公開研究会を通して，地域にその成果と課題を提示できたことは素晴らしい。
- ・素晴らしい公開授業風景であった。「豊小学習プラン」「家庭学習プラン」や「家庭学習がんばろう週間」などの具体的・継続的取組を通して，学校教育目標の具現化や学習規律や学習習慣の定着が図られていると思う。
- ・楡形地区共通の「学習のめあてを示す」など見通しをもった学習や「授業後の振り返り」など，授業の流れの中で様々な取り入れ方を工夫して，自ら学ぶ児童の育成に生かしてほしいと思う。本物の発言力の向上は，付け焼刃の効かない力で，強制してつけられる力ではないので，今のように基礎学力向上の弛まぬ実践と，豊富な体験と人との関わりでの自信を身に付けていく過程で徐々に向上する力だと思われる。継続した取組を期待している。「深い学び」の実現については，職員がどのように捉えて，それを意識して，どのように実践しているのか，なお追究してほしい。
- ・時代の流れと共に変化していく教育活動に加え，コロナで止むを得ずの機器活用や指定校での公開授業等，多忙な時期を過ごした中で，チーム豊の協力体制ができ，信頼と協調性が構築できたことはラッキーと捉え，児童アンケートの⑨⑩の高い評価を励みにし，尚一層の向上を目指してほしい。
- ・話し合いや討論・発表などは大人でもハードルが高いので，まずは児童たちの興味がある，アニメや芸能，Youtubeなどを題材に話し合うのも良いだろう。
- ・いつの時代でも先生方は教育に一生懸命である。今回その様子が集計から見られたことに感激した。「児童生徒がなんのために勉強するのか」本質をとらえられるような「授業の目当てを示していますか。」のB評価が13%なのが気になる。一時間の構成をしっかり持つことが大切である。先生方が，一時間の構成をしっかり胸に秘めて児童生徒に理解できるように頑張っている姿はよく見える。
- ・教職員アンケートでAを付けるということは「自信がある」からであり，Bを付けるということは「迷いがある」からという見方ができる。「⑩話し合い，討論，発表などの言語活動を効果的に取り入れていますか。」を見るとAが47%，Bが53%。半数は自信がないと見ることもできる。一方で児童アンケートの「⑩授業中に自分の考えを伝えている。」を見てもAが28.5%，Bが45.5%であり，2つの結果はつながっているのではないかと考える。また，「②対話を意識した学び合いを取り入れていますか。」「②深い学びになるよう，課題や発問の工夫をしていますか。」もAが60%台となっていて，「自分の考えを伝えている」の数値につながっているのではないだろうか。深い学びというものは表にでるものだけでは，とらえきれないものである。数値だけでは読み取れないところをどう見ていくのかも考えていきたい。

(3) 生徒指導・生活指導について

- ・「スマホSNS出前授業」や「ほっと！ネットセミナー」や学校保健委員会など外部講師を入れ，保護者と連携して情報モラル教育を進めていることは，時宜に合っていて適切である。それでもなお，学年が上がるにつれてSNSやオンラインでのトラブルは，生まれてくる必然がある。ルールについて確認しても徐々に意識の低下や確認の不徹底によるトラブルもおこる。継続して保護者との学習と連携が必要だと思う。

- ・児童から、困ったことを相談することは、なかなか勇気がいることである。また困難なことに出合っていることさえ分からない子もいる。いじめ問題や生活指導も含めて教職員の方から絶えず近づいていく取組を今後も大切にしてほしい。
- ・学校を訪問した際、お会いする先生方の笑顔に安堵する。子供達も同じだろう。見守り活動で交通指導させていただいているが、校長はじめ先生方が交通指導と共に登校児童の心の変化に即座に対応している様子は頼もしい。いじめ対策でも管理職を含め、担任、関係主任が保護者と連携を図り、早期に解決されている。
これからは情報モラル教育を徹底して欲しい。
- ・コロナ禍での運動会や校外学習は大変だと思うが、大きな感染もなく、先生たちには感謝している。
- ・生徒指導・生活指導は異なる。小学校では特に生活指導に重点を置くのが良い。今から生きていく社会に通用するマナーを身に付けることは、将来の生活をより良いものにすると思う。未来になって小学校の良さ大切さをかみしめることであろう。
- ・児童のアンケートも前期に比べて上がっていたり下がっていたり、学年によって違っているが、全学年が下がっていた項目が「①わたしは、学校が楽しい。」である。「学校が楽しい」というのは一番大切にしたいことであるが、その項目が下がっている。「A+Bが80%であれば」、「C+Dが20%であれば」との判断基準があり、「項目によっては」の断り書きもあるが、気になる。「①学校が楽しい」は7.4%が「あまり思わない・思わない」、「④相談できる先生がいる」は10%が「いない」と回答している。数値が小さいが、この数字をどう見るのか。きちんと押さえておきたいことである。しかもこの2項目は学校にとってとても重要な項目である。

(4) 保護者・地域との連携について

- ・学校便り「梨の花」や学年便りなどを通して地域や保護者との良好な意思疎通が図られている。保護者の学校への信頼も厚いと思われる。学校の教育目標や生活の重点目標の周知と具体的な取組も成果が上がっている。いじめ対策も学期毎に主任児童委員、スクールカウンセラーも交えて話し合い、未然防止や早期解決が図られていて適切である。
- ・学校や先生方に相談しにくい悩みを抱えている保護者は、どこにもいるものだ。児童の様子から、隠れた児童や保護者の悩みや苦悩を見抜いて近づいてほしい。
- ・保護者の意見も大半が感謝である。コロナ対策で仕方がないが、親はやはり子どもの成長を直に観たいというのが本音の様だ。何か保護者参観ができる計画が立てられたら良いと思う。
- ・いろいろな制限があるので、保護者と先生との接点が少ないのは仕方がないと思う。
- ・本校では保護者と地域の連携は素晴らしい。とにかく学校の批判はする様だが、本校の批判は聞いたことがない。学校行事にはよく出席している姿に協力の強さを感じる。地域に向けて、活用できるものは活用し、地域にある教材を学校教育の中に引き込み連携を強めるとよい。

(5) 小中一貫教育について

- ・あいさつ運動を通して、子どもたちは、地域の中でも、自然な気持ちよいあいさつができています。小中の児童生徒の繋がりだけでなく、教職員の繋がりや保護者同士の繋がりも一層発展することを期待している。望ましい行儀作法や系統的合理的学習指導の連携と、その先に順次何を求めていったらいいのか引き続き模索して行ってほしい。そのことが地域の教育力の向上にもつながる。
- ・指導の同一性と各学校単位の独自性や個性を学び合う機会も大切にしてほしい。
- ・いろいろな作戦を考え、思考錯誤しているなど感心している。
- ・(小中一貫教育は)いろいろの書物によると現在の世相からやはり考えねばならないことが分かった。4月から中学生になる児童のためにも考えていきたい。
- ・土日に地区の公会堂によった。そこに6~7人の小学校高学年か中学生が集まっていたが、ほとんどの子があいさつをしてくれた。一緒にいた妻も「よくあいさつする子たちだね」と感心して

いた。学校での取組の表れの一つであると思われる。

(6) その他について

- ・コロナ禍と闘いながら、ウイズコロナも踏まえて、教育活動や諸行事などの精選を図りながら、学力や体力の向上を目指すことは至難の技だと思われる。困難な状況ではあるが、子どもたちにとっては、その時期にしか体験できないことが山ほどある。子どもの発達段階を踏まえて、生きる力を伸ばす取組をお願いしたい。

教職員の多忙化は、今なお続いていると思われる。全ての業務が必要であり、「何も削ることができない」現状だと思う。行政側もわが身になって、慣習に流されず、行事の精選と改善とその補助施策を一層具体的に提示してほしい。

私たちは生身の人間であるから、心の健康も身体も表裏一体をなしているから、心身両面からの健康を考えていかなければならない。特にストレスは日常生活上避けられないことである。完全主義にならないで、自分の仕事に誠意を尽くし、不足の部分は、仲間の助言や補助を受け入れてほしい。忙しさを理由に自分の家庭のことを軽視しないで、必要なことは早めに手を打つようにしたい。

- ・過日、本県にも漏洩事件が起きてしまった。個人情報騒がれる現代、あつてはならないことである。管理が100%になる様万全な注意を払っていただきたい。
- ・全体の傾向を見ると先生方のがんばっている様子がよくわかる。

学校教育活動全般について

- ・GIGAスクール構想の中で、この時代に生きていくために必要な資質や能力の育成を踏まえ児童の学びに向かう力と人間性の育成を総合的にバランスよく育んでいく大切さを痛感する。コロナ禍の中でインターネットやモバイル端末の普及は一層早急になってきた。豊小では端末の活用方法について、互いに教え合う土壌があることは素晴らしい。ICT機器をどう授業に生かすか、またその限界を知ることもこれからの大切な課題だと思う。
- ・ニュースで話題になっている諸表簿や記録などの管理・活用が豊小では、適切に行われている。アンケート結果を見て安心した。
- ・先日教員採用試験の希望者数が新聞に掲載された。今年は希望者が少ないと報じられていた。その理由の一つが過重労働とのこと。夜時々学校の横を通ると、職員室だけでなく、教室迄、電気が煌煌とついている。仕事(残業)や教室の感染症予防対策だろうと気になった。健康な体あってこそその教師である。あまり無理せず児童達の為にも御自愛していただきたい。
- ・やりたいこともなかなかできない我慢と葛藤の一年だったのではないだろうか。
- ・児童生徒の来客に対するあいさつ、言葉遣いから見えてくるのは、校長先生が経営方針の基本をしっかり持ち教師に伝え、同じ方向で頑張っている姿がすべてを表していると思う。
- ・道路で夕方児童生徒に会うと、大きな声で私を見て「さよなら」と頭を下げて挨拶してくれる。これこそ学校での教育の良さと家庭でのしつけの在り方が素晴らしいからだと思う。児童生徒に対する先生方の一生懸命な姿は、児童生徒へ伝わり、その結果がまた保護者から学校への協力体制として現れると思う。
- ・校長先生の経営方針を貫き、児童生徒が将来大きな花を咲かせるよう、学校と地域が一体となって連携し、児童生徒の成長を見つめ社会で活躍する姿を描き追い求めてほしい。
- ・コロナ禍において、学校が一丸となって教育・指導にあたられていることに心より敬意を表す。内容も、よく考えられて、分かりやすく、具体的に記述されている「後期評価書」だと思う。全体的に評価値も良く、御校の積極的な日頃の努力が結果に結びついていると思われる。今後も各評価結果を分析・検討し、反映していく中での取組を期待する。